

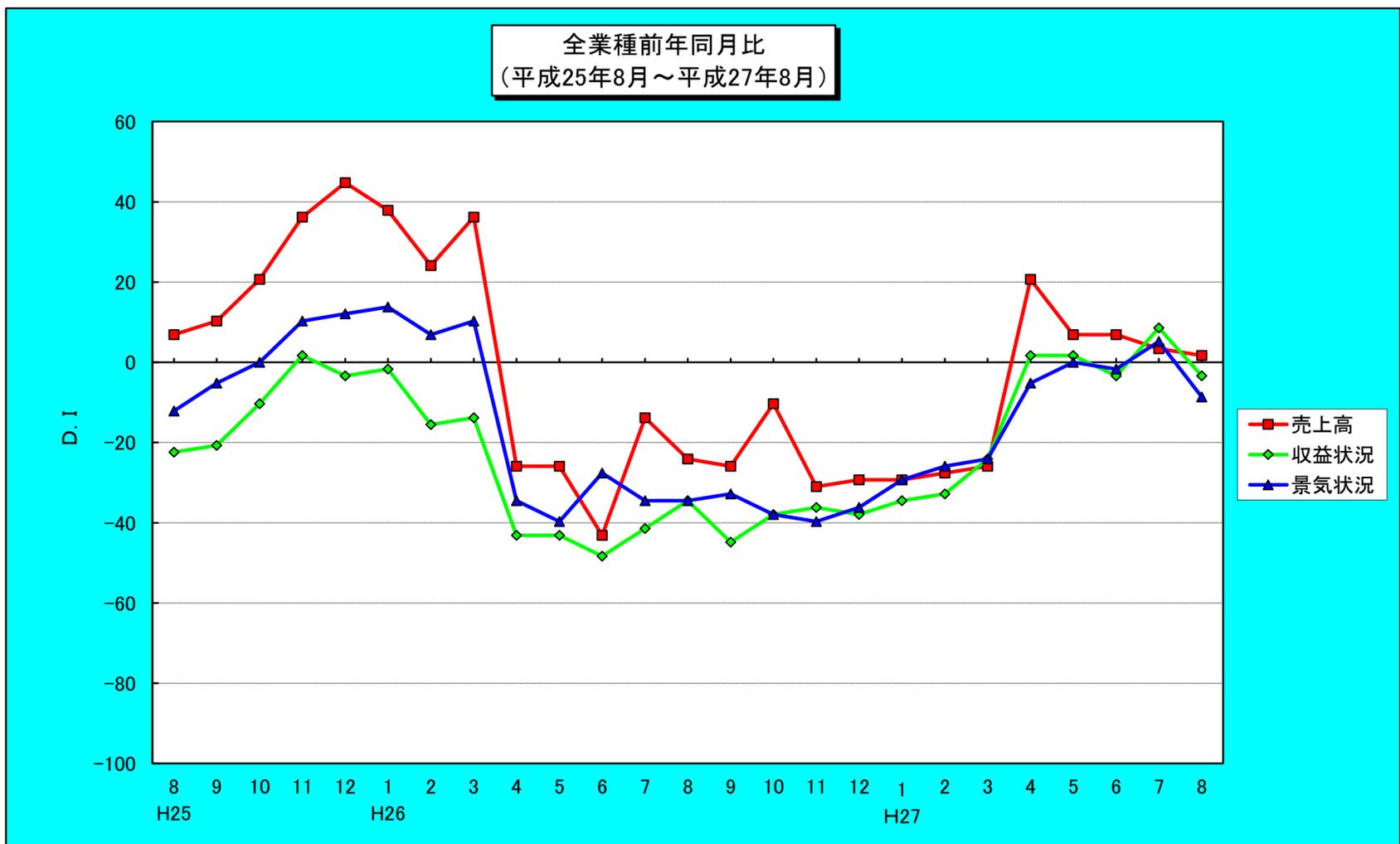
県内の情報連絡員報告

石川県中小企業団体中央会

■平成27年8月分

- 平成27年8月期において
- D1値で見ると、昨年同月比をもとに前月との増減を比べた場合、4項目が上昇、4項目が悪化、1項目が横這いであった。主要3項目（売上高、収益状況、業界の景況）が悪化しており、景気は停滞気味と言える。特に、収益状況と業界の景況は二桁の悪化となっており、今後の影響が懸念される。収益状況の悪化は主に窯業・土石製品製造業や鉄鋼・金属製品製造業において原材料価格が上がり始めたこと、業界の景況の悪化は多くの業種において先行きが見通せないことが要因のようである。
 - 製造業においては、4項目が上昇、2項目が横這い、3項目が悪化であった。売上高は二桁の上昇を示しているものの、収益状況と業界の景況は悪化しており、売上が収益に繋がっていないこと、売上が一時的なものである可能性が高いことで、今後の懸念される。売上が上昇した要因は金沢市とその周辺において住宅着工が増えてきたことから木材・木製品製造業、観光客の増加により食料品製造業、民間の工場新設工事で出荷が大幅に増えた窯業・土石製品製造業が好調であったからである。
 - 非製造業は、1項目が上昇、3項目が横這い、4項目が悪化で、先月から悪化に転じたと言える。悪化に転じていたのは、個人消費の低迷から秋・冬物が振るわない繊維品卸売業、猛暑と天候不良で漁獲も少なく消費者も控えた鮮魚小売業で、継続して不調であったのは個人消費の低迷から衣料品小売業と米穀小売業、共同店舗、観光客の少ない商店街、公共工事の少ない建設業であった。なお、概ね低調な中、好調であったのは、新幹線開業による観光客の増加から、土産物小売業、近江町商店街、旅館・ホテル業、燃油小売業であった。
 - 中国経済の影響については、全業種では、「悪影響」と「影響なし」が拮抗していたものの、「悪影響」の方が若干多く、「好影響」は2.1%と僅かであった。「悪影響」と回答したのは50.0%で、半数の業界で悪影響が見られるということであり、その影響は広範囲に及ぶと言える。但し、「悪影響」の割合は、製造と非製造業で傾向が分かれた。製造業においては、「好影響」との回答はなく、「悪影響」との回答が58.3%と全業種よりも多かった。これは、製造業では輸出に関連する業界が多いからだと考えられる。「悪影響」の理由においても、“輸出の減少”が最も多く、これは鉄鋼・金属製品製造業や一般機械器具製造業、繊維工業において見られた。その他の業種については、理由は異なり、一貫した傾向は見られなかった。非製造業においては、全業種と異なり、「悪影響」との回答が少なく（41.7%）、「影響なし」との回答の方が54.2%と多かった。非製造業は内需に依存する業界が多いため、このような結果になったと考えられる。「影響なし」の理由においても、小売業や商店街、建設業、旅館・ホテル業において、“観光客用の商品を扱っていない”、“外需やインバウンドに依存していない”という回答が多かった。「悪影響」の要因は、“個人消費の低迷”、“観光客の減少”が多く、これは旅館・ホテル業や卸売業、商店街で見られた。旅館・ホテル業と商店街は、「影響なし」と「悪影響」の両方で見られ、その立地や日本人観光客の多さによって影響が異なるようである。また、“輸出減少による物量の減少”と外需との関連を要因に挙げたのは、運輸業であった。なお、今回の調査で1つだけ見られた「好影響」との回答は燃油小売業であり、中国経済減速による原油の需要低下で、原油価格低下による収益の確保が期待されるとのことであった。

◇全業種の前年同月比推移（H25.8～H27.8）



※本調査は、当会に設置している情報連絡員〔中小企業の組合(協同組合、商工組合等)の役職員58名に委嘱〕による調査結果です。調査は、情報連絡員が所属する組合の組合員企業の全体的な景況(前年同月比)です。

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
製 造 業	食料品	調味材料製造業	売上は前月比、前年同月比共に6月から継続して伸びている。全国業界の数字は98%であり、新幹線開業による恩恵と思われる。残念ながら原料も円安による続伸中で、収益の改善には繋がっていない。 個人消費について、売上の伸びは新幹線効果と、今夏の猛烈な暑さも一因と思われる。夏暑く、冬寒い、正当な季節の変動を期待している。
		パン・菓子製造業	売上高・収益状況共に好転している。 個人消費について、引き続き新幹線効果はあるが、地元消費は低調～横這いである。観光需要に牽引されている。
	繊維工業	織物業 (加賀方面)	カーテン生地を受注量が減少している。原材料は為替の変動から値上がり幅が大きく、高止まりしたままで、それに対する価格転嫁は一部しかできず、特に絹織物では需要とかけ離れた生糸の高騰により、採算性は一段と悪化している。新商品開発や品質向上への経費の対応が出来ず、厳しい経営環境を余儀なくされている。 対前年同月比、売上は引き続き減少、操業度も低下した。
		その他の織物業 (染色加工)	売上高は前年と比較すると10%程減少している。収益状況もそれに伴い、悪化していると思われる。高級品に関しては、数は少ないがそれなりの動きはあるようだが、主力商品から下の価格帯の物が苦戦している。低価格品は市場でのダブつきが見られる。 消費動向は、趣味性が高い呉服に関して非常に厳しい面が感じられる。中間層が購入していた、少し無理すれば買える商品の動きが鈍化してきている。実体経済が良くなっていないことが原因と思われる。 業況に関しての改善は見られない。和装品の売上の減少が止まらない状況である。
		ねん糸等製造業	売上高、収益状況とも大きな変動は見受けられない。全般的にほぼ横這い状態であり、加工賃は安定していると思われるが、今後景況の悪化が懸念される。 個人消費について、現状ではあまり苦しい状況ではない。 業界として、今後、人材確保が一層厳しくなると予想され、業務内容に支障をきたすことも懸念される。
		その他の織物業 (織マークの生産・加工)	8月度は、昨年8月度と同レベルの低い売上となった。一昨年12月以降の売上減少傾向は変わらず、業界の状況は極めて深刻度を増している。9月以降の輸入物価の値上げの秋を迎えて、消費の回復は更に望めないのではないかとと思う。
	木材・木製品	製材業、木製品製造業 (加賀方面)	8月度売上は前年度と比較すると、前年比30%増加している。前年度同月は消費税駆け込みの後に、事前契約(25年9月まで契約済みでは消費税5%でよい)の仕事が8月半ばまで続いていたが、半ば過ぎてからは売上は下降した。受注契約は、平均すると例年の水準に至らないが、盆明けから9月頃の受注が少しずつ緩やかに増加傾向が続いているとみられる。但し、地方によって格差が出てきている。 8月の個人消費は金沢市を中心として、周りの市町村のみが少しずつ回復が見え始めた。
		製材業、木製品製造業 (能登方面)	販売材積1,803m ³ と昨年より289m ³ 多く、売上高は26,651千円と昨年より6,715千円多く、平均単価は14,777円と昨年より1,615円高かった。昨年より販売材積と売上高が良いのは、公共事業(能越道路の伐採)の材が出てきたので取扱が多くなったが、市況は依然として低迷が続いている。大手の製材は受注があるが、小さな製材・工務店は全然受注がない状態である。
		製材業、木製品製造業 (金沢方面)	以前合板入手難が継続、全体的な需要は出ていないのに、各メーカーの生産調整により、需給のバランスが取れなく、併せて価格も上昇気味となっており、弱っている。
	印刷	印刷業	8月に入り、業界全体の売上が、前倒し受注もあり、また猛暑も伴い予想以上に低下した。イベント企画も7月中頃には全て納入済みで、9月末～11月への行楽企画に期待したい。収益については、上半期の売上金回収に全力投球する。 個人消費について、好天が続き、ファミリー・友人とのイベント参加が昨年以上に多くなった。
	窯業・土石製品	砕石製造業	8月の組合取扱い出荷量は対前年同月比、生コン向け出荷は14.5%増、合材用アスファルト向け出荷は9.1%増となり、全出荷量でも14.0%増加となった。生コン向け出荷で白山麓地区では▲41.2%となったが、先月に引き続き金沢地区生コン向け出荷が32.1%増加となり、全体をカバーすることとなった。
		陶磁器・同関連 製品製造業	売上高は、前年同月比を大幅に上回った。売上そのものが少ない月ではあるが、有難いことである。また、収益状況も良好に推移している。その要因として、最も影響があることは、北陸新幹線開業に伴う観光客の大幅な増加があげられる。ただ、資材の上昇が落ち着いていたが、ここにきて少しずつ値上げ状況に向かう傾向が見え隠れしている。 消費者動向の厳しさには変わりがない。観光客の大幅な増加による売上の増加であり、一人当たりの消費は決して増加していないと考える。
		生コンクリート製造業	平成27年8月末日の県内の生コン出荷量は、前年同月比117.4%(組合員外会社を除くと112.7%)となった。地区の状況では、南加賀、金沢、能登がプラス出荷であり、金沢地区においては、前月に続き民間の工場建設工事が大きく伸びたことが要因だと思われ、能登地区においては公共事業の増加が伸びた要因である。また、鶴来白峰、羽咋鹿島、七尾がマイナス出荷である。官公需、民需(組合員外会社を含む)の前年同月比は、官公需87.0%、民需144.4%の状況である。
		粘土かわら製造業	消費増税後に箱型のローコスト住宅の比重を高めるハウスメーカーが増加傾向となり、住宅着工戸数は回復傾向であるが、出荷量は依然として厳しい状態が続くようである。燃料価格・電力料金は徐々に低下しているが、原材料価格は高止まり状況が続き、当面価格転嫁も容易に出来ず、厳しいものがある。
	鉄鋼・金属	一般機械器具製造業	業況は好調から不調と、企業間や業種によりバラつきはあるものの、採算面では利益を確保している。今後においては、原材料費の高騰と製品単価のバランス、人件費の増加などが課題であり、全体的に先行きへの不安感がある。
		非鉄金属・同合金圧延業	先月同様、観光客が減少傾向でお土産等の売上が下降気味に推移している。 工芸品については、先月同様、観光客が減少傾向にあり、幾分下降気味である。
		鉄素形材製造業 (鋳鉄物の製造)	生産量は前年同月比で101%とほぼ横這い状態が続いている。向け先別では自動車、産機向けなどは横這い、建機向けはやや低調、織機向けは依然として低調、工作機械向けのみ好調を維持しているようである。操業度は8月の稼働日が少ないので、対前月比では約90%、前年同月比101%とほぼ横這い状態が続いている。中国の人件費高騰などの理由で、一部素材の国内への回帰があるようである。 日本鑄造協会主催で中小鑄物業を主体とした若手経営者夏季全国大会が、9月14・15日に金沢市で開催される。
		鉄素形材製造業	売上高・収益状況共に悪化した状態が続いている。コマツに関しては、春先には秋から少し状況は良くなるとの予想であったが、ここにきて一層落ち込んできた。
		一般産業用機械・装置製造業	受注自体が踊り場的な感覚がある。依然と比較すると、設備投資に慎重になっている。主要取引先からの受注減少により、減収・減益である。設備投資が、国や地方自治体等からの補助金を充てることが多くなってきており、商談のスピードが遅くなっている。コマツ粟津工場の減産に伴う受注が減少してきている。
	一般機器	機械、機械器具の製造 又は加工修理	売上高及び収益状況については、企業によって異なるが、全体としては減少傾向にある。とりわけ、直接的・間接的に中国市場と関係している企業においては、受注の減少がはっきりとし始めている。しかし、一部の企業においては、依然として一定量の受注があり、減少傾向は見られない。その原因がどこにあるのかは、中国経済自体の構造的な不透明さから情報が少なく、当該企業も測り兼ねており、疑心暗鬼にならざるを得ない面もある。
繊維機械製造業		組合員の繊維機械向け部品加工は、前年平均比プラス11.6%、前月比マイナス12.4%、平成19年平均比マイナス29.4%となった。依然として、取引先及び組合員企業の操業度には余裕があるレベルである。取引先では、主要市場である中国からの受注案件が減少しているが、インド・ベトナムなどからの引合い・受注が出てきており、採算ベースに到達しつつあるようだ。しかし、組合員企業ベースではまだまだ採算ベースではなく、加えて多仕様対応と短納期化要請が強くなってきている。一方、工作機械関連事業向けの部品加工は、前年平均比プラス29.4%、前月比マイナス12.3%、平成19年平均比プラス11.5%となった。携帯スマートフォン関連の設備投資が一巡し、急激な落ち込みが出てきたが、自動車や一般機械分野からの受注レベルは依然として堅調であり、組合員企業は全体的には順調な操業を維持している。ただ、現状の業態・業種・地域別に一部力強さに欠け、今後格差が出始めるとの懸念があり、それぞれの状況を注視しながら、特に我々組合員中小企業では操業維持の対応をしていく必要があると思われる。	

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
製 造 業	一般機器	機械工作鋳金加工	8月の工作機械の売上は前月比82.4%、前年同月比83.5%となっている。内需は前月比79.6%、前年同月比113.6%であった。外需は前月比84.7%、前年同月比68.9%となっている。5月以降8月までの外需は、前年同月比が右肩下がりとなっている。以前より懸念されていた中国経済の破綻の影響が大きいのではないかとと思われる。内需を見る限り、この影響はまだ見られないようだが、消費低迷を引き起こし、国内景気に波及することがいずれ起きるのではないかと懸念する。あるホテル業では、昨年からずっと続いた中国団体の予約ラッシュがたちどころにキャンセルの数が増えているとの話もある。この状況が今後の日本の景気に何らかの影響を及ぼすものと思われる。ここ最近の株価乱高下、円の為替変動、原油の価格変動等も注視していきたいものである。
		機械器具及び其の他 金属製品の製造	前年同期比から見たら、採算性・業績状況・従業員数は悪くなっている企業もあるが、全体的に業績は悪くない。業種や企業間で差も縮小している。輸送機部門では、売上高・採算性・業績状況は前月からは良くなっているが、見通しは全体に悪くなっている。電気機械では、溶接消耗部品は前月並み、電子・デバイス関連は機種の変更が進み、仕事量が戻ってきている。チェーン部門は、四輪、二輪用と産業機械用チェーンは少し減少だが、大型のコンベヤチェーンは追加していて、受注は安定している。繊維機械はオートワインダーの生産は前月よりやや増加し、業績については前年同期を維持している。売上高と収益性は前年・前月と変わらないが、特に繊維機械と溶接機器が良い。また、チェーンは国内向けが好調に推移している。
		機械金属、機械器具の製造	前月同様、売上・収益共、まずまずと言ったところである。工作機械関連は好調であるが、繊維機械関連は中国がやや不振で、建設機械関連の大型も不振である。
	その他の製造業	漆器製造業 (能登方面)	まばらながら売上・収益共に改善が見られる事業所があるようだ。個人消費について、8月も北陸新幹線の開業やNHK「まれ」放送の影響もあり、昨年対比で観光バス、自家用車共の入込が少し(20~30%程)増加となった。
		プラスチック製品 製造業	大きな変動はなく、横這いと言ったところである。例年8月は稼働日数が少ないため、売上の下がる傾向にある。本年も対前月で金額は低下した。個人消費に関するものは少ないが、新幹線の開業以降観光客の増加が色んなところに影響を与えていて、総じて活況であるように思う。マイナンバー制度が始まるようであるが、全体はまだ見えてこない所以对応が後手に回っているような気がする。
	非 製 造 業	卸売業	事務機・事務用品卸売業
水産物卸売業			8月の買受高は対前年同月比4.6%増と、先月に引き続き増加しているが、8月分売上高では、2.6%増と前月まで10%を超えていたが、今月は減少した。元々8月は例年益を過ぎると売上は落ちる傾向にあるが、今年は天候不順が続いたので、影響があったものと思われる。
一般機械器具卸売業			住宅市場が少しずつ回復基調を呈してきた。非住宅市場は官公需が依然低調だが、民間需要が堅調で、トータルでは組合員格差はあるが、売上収益共に前年レベルを維持している。店舗リニューアルや学校等の耐震補強工事等で照明器具のLEDへの取替が堅調に推移している。
各種商品卸売業			アパレル関連の卸売について、通常、秋から冬物商品の引合が活発となる時期であるが、近年の個人消費の低迷から、年々低調度合いが増しており、厳しい環境が継続している。
小売業		燃料小売業	8月は好天に恵まれ、高温であったことから、燃料油の販売は好調に推移した。販売量は昨年を上回ったが、昨年の同時期の販売単価は今年より15%程度高い水準にあったため減収となった。原油安に伴い、仕入価格は低下したものの、販売価格は先行して下落しておらず、利益はある程度確保できている。総じて、対前年比減収増益と言える。個人消費について、高温・好天であったことから、燃料油以外のカーケア商品の売上も増加した。レンタカー事業に取り組んでいる事業者は好調に推移した。
		機械器具小売業	平成27年8月度、金額伸びは105%であった。カラーテレビは120%伸び、ルームエアコンは暑さの回復で100%となった。また、洗濯機も100%、冷蔵庫も100%まで回復、夏場商戦での天候回復による夏物商品需要への影響力の大きさを改めて知らされた。8月は夏物商品の回復で売上増に繋がったが、9月以降の需要動向は全く不明である。夏物商戦終了後の商戦の柱がない。
		男子服小売業 婦人・子供服小売業	前半は猛暑、後半は気温低下、例年通り、旧盆以降客数は減少したが、夏物バーゲンを徹底したので、102.6%の実績であった。初秋物が若干動き始めた。消費増税後、価格と品質のバランスを見る目が厳しくなった。
		鮮魚小売業	8月は前年に比較して売上高は低下した。土用の丑の魚は良かったが、その後、市場の入荷も少なく、気温の上昇もあり、売行きは芳しくなかった。個人消費について、暑さと台風によるもので、消費者が鮮魚を控え、漁獲も少なく、季節的に売れ行きが落ちる月である。今年は例年より大きく落ち込んだ。業界の動向は、ここへきて夏場の売上が例年より減少しているところが多くなっている。原因は、消費者の動向が大きく変化し、加工品や惣菜へ移行している。家庭での調理が夏季に特に減少している。
		他に分類されないその他の 小売業	GWと同様に、旧盆の期間に新幹線利用の観光客が早々に金沢市内の宿泊施設を予約したことで、マイカーの観光客が17時頃には市内から郊外へ出ていってしまった。兼六駐車場は旧盆時期に兼六園入園者増と比例しなかった。個人消費について、飲食や食べ歩きもの(ソフトクリーム・串焼きetc)は町中でも消費されるが、お土産はJR利用者はほとんど金沢駅であった。
		百貨店・総合スーパー	昨年対比計99.1%、ファッション84.2%、服飾・貴金属111.9%、生活雑貨92.1%、食品102.9%、飲食100.1%、サービス104.5%、客数98.9%であった。7月9日に行われたキーテナントの食品売場改装によるリニューアルオープンの組合への恩恵効果が、思ったよりは続かないようである。館の販売促進にて、売上昨年対比をキープできたものであると考える。お盆明けから気温が下がり、ファッション等の業種の夏物に影響が発生したものと思われる。売上のトータル昨年対比は横這い状態であったが、業種によって大きな差がある。個人消費について、夏休み期間であるため、観光客は例年通りであったが、新幹線開通効果が少し薄れてきたイメージがある。
米穀類小売業		金沢市のプレミアム商品券でどれだけの効果があるか見ものである。新米時期は毎年農家の持ち出しがあり、あまり期待できない。個人消費について、秋の味覚、新米の出回りに期待する。観光客の出足如何にかかっている。業界の動向として、新幹線効果も一段落、町中の賑わいも一段落の様相である。秋の行楽時期に期待する。新米の出回りも9月には始まる模様である。	
商店街		近江町商店街	前年より売上は良い。観光客が増えたことによるが、業種による差異が大きくなっている。個人消費について、夏休みでもあり、外国人を含め、観光客が増加した。
	輪島市商店街	売上は昨年対比98.6%であった。新幹線開業とNHK朝ドラ「まれ」の効果で、観光客の入込は大変増えている。ホテル・旅館や飲食店、土産物店等は順調に売上が上がっているが、地元のお客様相手の商店街に波及効果はまだ現れていない。	
	片町商店街	商店街はセールも一段落して、物販にとっては一番静かな月である。ただ、お盆中は観光客や帰省客も増えて、商店街としては賑わいを感じる事ができた。売上に関しては、伝統工芸品を販売するお店は2割程度伸びていると聞いている。富山のアウトレットモールが開業したが、片町商店街としては目立った影響はないと考えている。個人消費について、全体的に消費動向は低迷していると感じているが、新幹線効果もあり、その分を補っているような感じである。飲食店などの客足も良いようだが、新幹線開業に伴い新たな出店もあり、お客様が分散している様子も見受けられる。業界の動向として、7月より物販はセール期間中なので、販売価格はセール価格になっており、今も変わっていない。その他景気動向は決して良くはないと判断しているが、お盆時期の観光客増があり、概ね不変とした。観光客向けの業種は伸びが見られる。	
	堅町商店街	売上は特に変化はない。前半は暑すぎて良くなかったが、お盆あたりから天候も平年並みに安定してきたので、後半は良かった。業界としては、バーゲンも終わり、退店、出店の話が出る季節となり、この秋は撤退より出店が上回ることになる。原因はアウトレット、コストコなど、この春からの出店が終了し、概要が全て分かったこと、新幹線景気で、駅、武蔵、香林坊がいっぱいになり、空気が堅町にあったことだと考えられる。	

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
非 製 造 業	サービス業	旅館、ホテル (金沢方面)	新幹線開業後の初めての夏期であったが、予想を超える入込であった。観光、イベント参加など、多方面の需要が活発であったと思われる。また、単価についても需給の関係で上昇している。売上高は客室稼働率の向上(40%以上)により大きく増加した。単価も上昇したため、収益も増加した。 個人消費について、高齢層の需要(旅行)が高まっていると思う。
		旅館、ホテル (加賀方面)	売上高・収益状況共に改善が見られた。 個人消費について、関東圏からの需要により、単価が上がっている。 業界の動向としては、北陸新幹線開業効果により、平日需要も増加してきている。但し、8月は車観光が多く見られたので、関西・中京からのお客様が少し戻ってきた状況が見られた。
		旅館、ホテル (加賀方面)	温泉地全体の宿泊客数は、対前年96.6%と減少した。原因としては、旅館1軒の減少(組合脱退)、旅館1軒の営業スタイルの変更(女性専用旅館への転換)などが大きく影響した。その他の旅館は昨年並みの入込であった。各旅館の売上はまだ判明していないが、温泉地全体の集客数が減少したこともあり、大きな収益増は見込めないだろう。但し、関東圏の宿泊客は他地域に比べて宿泊単価が高く、収益増には好影響をもたらしている。 個人消費について、8月は好天に恵まれたことから、昨年に比べて祭りイベントの集客・売上が大きく増加した。
		旅館、ホテル (能登方面)	入込客数102,173人で対前年比107%、宿泊単価対前年比2,000円アップである。北陸新幹線による入込客の増加により、宿泊単価も上昇した。お盆入込に関しては、対前年比104%で好調であった。その他、8月1日の全国氏子大会(800人)や8月23日全国自治労大会(300人)の宿泊がある。 個人消費について、8月は晴天に恵まれ、キャンセル等は特になかった。関東方面の客足が伸びていることが良い。
		自動車整備業	平成27年8月期の継続検査実績車両数は、登録車で対前年同月比108.1%、軽自動車は114.2%、合算は110.2%であった。登録・軽自動車共、昨年(車検2014年問題)の各減少月は登録・軽自動車とも順調に戻りを見せている。新規登録では、中古車新規も含み、新規登録の8月期は登録車・軽自動車合計で前年比105.3%であった。新車販売(8月期)は登録車で対前年比108.5%、軽自動車97.8%、軽自動車は不振ながらも下げ幅が減少した。 車検台数が好調に推移している中で、若干の賑わいがあるもの、売上に反映しているのか不明な状況である。車の費用に掛けるユーザー心理は、「やはり財布の紐は固い」と思われる。
	建設業	板金・金物工事業	昨年が良すぎたため、比べられないが、例年並みかそれに近づいて来ている様だ。ただ、6・7月より仕事量は増えてきているようだ。 個人消費について、リフォーム工事等は全体的に少ない。
		管工事業	8月度における売上高と収益状況は前年同期とほぼ横這い状態である。給水装置工事の受付件数は、昨年同時期より少しの伸びがあるが、ガス管工事受付件数は若干落ちている。全体的には前年同期とほぼ横這い状態である。 個人消費について、業界の仕事の内容は季節的には今が一番忙しい時期と思われる。
		一般土木建築工事業	公共工事の発注件数及び工事金額は、前年同期と比べて、大きく落ち込んでいる。発注件数が少ないため、過当競争になっている。また、民間工事においても工事件数が減少している。一部職種を除き、労働力に余裕が見られる。売上高・収益状況共に下降している。
	運輸業	一般貨物自動車運送業①	食品・飲料関連は暑かったこともあり、順調な荷動きであったが、その他の荷動きは不調であった。燃料価格は前年と比べ、-38円となっており、収益は確保できている。
		一般貨物自動車運送業②	8月度の売上高は、前月比はマイナス約22%、前年同月比ではプラス約7%であった。お盆休みで稼働日数が少ないこともあり、県内からの出荷量は今一で、あまり忙しい状況ではない様子であった。収益状況は、燃油価格が1年前と比較すればかなり下がっており、トラック運送業界にとっては、有難い状況となっている。